



## 大地申第1号

## 第2回交渉①

# 「JR東労組大宮地本第22回定期大会」の発言に基づく申し入れ

3. 「乗務員区所事務業務体制の見直しについて」の施策実施以降、現業機関での事務担当者の負担が増加していることから、今後の展望を明らかにすると共に業務を平準化すること。

組：現場では事務業務について、助役が「人材育成を行うことが仕事」と言い、積極的にやらない現状がある。支社として認識しているのか？

会：仮にその様な管理者がいるようなら指導していく。

組：今後、乗務員区の事務業務はどの様なものが残っていくと考えているか？

会：小口現金などを含めた経理関係がメインで残っていくと考えている。

組：今後の具体的な展望はあるのか？また業務を振り分けていく時は、事務担当と丁寧にコミュニケーションを取って行うこと。

会：本来の事務担当業務でない業務まで担って貰っている現状がある。本来事務センターが担う業務、現場で担う業務であるなど明確にして、事務業務をあるべき姿にしていきたい。また事務担当とコミュニケーションを取っていく。

## 管理者への指導・業務の振り分け説明を行い、事務担当者の負担軽減を行うことを確認！

4. 大宮運転区においてタブレット交換作業を指示しておきながら「超勤は出ない」「当区の行路にノーペイ部分はないから超勤にはならない」といった管理者発言についての見解を明らかにすると共に、再発防止に努めること。

組：管理者の中には「ノーペイ」と言っている。複数社員が管理者とやり取りする中で、必要な業務でやるべきと言っているが、支社から指示を受けていないと言われている。

会：労働時間で扱う認識はあった。各自時間がある時に対応して欲しいと伝えている。

組：認識が合わない！職場では「自分の時間」「手待ち時間」でと言われた。

会：「自分の時間」の認識が間違っていると思う。時間がある時に行う事はある。

組：会社は「乗務員の手待ち時間」と言っていたが、具体的にはどの様な時間の事を差しているのか？

会：例えば歩く速度が速い人は、待機場所に早く着いた時の空いた時間や、労働時間Bの事になる。

組：現状は手待ち時間なんてない！そもそも、どこの行路についているか分からない！